

- 問1 2019年に制定された「アイヌ施策推進法」では、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。アイヌ民族が日本の先住民族であることを認め、その独自の伝統や文化を維持・振興することで実現しようとしている、多様な背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)
1. 高度情報化社会                      2. 持続可能な社会                      3. 多文化共生社会                      4. 中央集権社会
- 問2 縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
1. 銅鐸                      2. 石包丁                      3. 土偶                      4. 埴輪
- 問3 縄文時代において、人々が定住生活を送る中で作り出した遺物のうち、表面に縄目の文様が見られることが多く、食物を煮たり保存したりするために活用された道具の名称とその特徴として適切なものはどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 古墳の頂上や周囲に並べられた、人物や馬の形をした埴輪                      2. 高温で焼かれた灰色で硬い、貯蔵用の須恵器                      3. 薄手で赤褐色をしており、文様が少なく実用的な弥生土器                      4. 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器
- 問4 日本の北方に位置する地域に古くから居住する先住民族と、その文化に関する記述として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. 沖縄などの南西諸島を中心に独自の王国を築き、中国や東南アジアとの中継貿易によって繁栄した。                      2. 古代に朝鮮半島や中国大陸から移住し、日本列島に稲作や青銅器・鉄器などの進んだ技術を伝えた。                      3. 平安時代以前に東北地方に住み、朝廷の支配拡大に対して抵抗を続けたことで「蝦夷(えみし)」と呼ばれた。                      4. 北海道や千島列島などを主な居住範囲とし、シリエトク(知床)などの地名の由来にもなっている独自の言語を持つ。
- 問5 縄文時代に作られた土偶の中には、わざと体の一部を壊した状態で発見されるものがあります。このような特徴から推測される、土偶が作られた目的として最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
1. 大陸から伝わった高度な彫刻技術を模倣しようとして、失敗したものを廃棄した残骸。                      2. 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。                      3. 集落間の争いにおいて、倒した敵の姿を土偶に投影し、戦勝を記念して破壊する儀礼用。                      4. 土器を作る技術が未熟であったため、焼成の過程で自然に壊れてしまうことを前提とした観賞用。
- 問6 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。 (2025年 北海道公立入試 類似)
1. 岩宿遺跡                      2. 三内丸山遺跡                      3. 登呂遺跡                      4. 吉野ヶ里遺跡
- 問7 縄文時代の遺跡において、海岸や水辺に近い集落付近で見つかる、食べた後の貝殻や魚の骨、破損した土器などが堆積した場所を何といいますか。当時の人々の「ゴミ捨て場」としての性格を持ち、生活の痕跡(生活跡)を現代に伝えるものを選びなさい。 (2024年 大分県公立入試 類似)
1. 高床倉庫                      2. 貝塚                      3. 環濠集落                      4. 古墳
- 問8 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床(しれとこ)」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. 渡来人                      2. アイヌ民族                      3. 蝦夷(えみし)                      4. 琉球民族
- 問9 石器時代の道具や生活の変化について述べた文として、縄文時代の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
1. 本格的な水田稲作が広まったことで、石包丁を用いた穂首刈りが一般的になった。                      2. マンモスなどの大型の獣を追うため、移動生活に適した打製石器のみを使い続けた。                      3. 青銅器や鉄器が大陸から伝わり、石器は次第に祭祀用の道具へと変化していった。                      4. 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。
- 問10 縄文時代の遺跡から発見される、人間を模した土製品(土偶)に関する記述として、当時の人々の暮らしや考え方を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 米作りの儀式において、神の依代として用いられた青銅製の道具である                      2. 亡くなった豪族の権威を示すため、巨大な墓の周辺に副葬品として配置された                      3. 定住生活が始まったことで、集落の入り口に魔除けとして立てられた石像である                      4. 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された
- 問11 日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)
1. 登呂遺跡 — 弥生時代                      2. 三内丸山遺跡 — 縄文時代                      3. 三内丸山遺跡 — 弥生時代                      4. 吉野ヶ里遺跡 — 弥生時代
- 問12 縄文時代に見られる「土偶」と、後の古墳時代に見られる「埴輪」を比較した説明として、正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)
1. 土偶は、古墳の内部に副葬品として納められたが、埴輪は住居跡から発見されることが多く、日常的な食器として使われた。                      2. 土偶は、弥生時代に稲作が伝わった際に祭祀用として広まったが、埴輪は縄文時代に集落の守り神として置かれた。                      3. 土偶は、大陸から伝わった金属器の影響を受けて作られたが、埴輪は日本独自の土器文化から発展した石製品である。                      4. 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。
- 問13 約1万以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された                      2. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた                      3. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した                      4. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた
- 問14 約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
1. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された                      2. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった                      3. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた                      4. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった